

# SDGs への取り組み：保育学科

<b>目標</b>	保育学科では、多様な教育・保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持ち、子ども自身のことはもちろん、保護者や地域社会とも向き合い、現場で生じる様々な諸課題に対し、ゆとりを持って対応できるしなやかな人材を育成することを通して、SDGsの目標達成に貢献しています。	
<b>授業での取組事例①</b>	<p><b>安全性や生態系に配慮した描画材づくりと現場での活用事例の学習</b>                  (担当教員) 佐藤昌彦 教授 (科目名) 幼児と表現 (造形)                  (連携先) ペンてる株式会社 (実施時期) 令和4年6月、令和5年1月</p> <p>【教育目標】                  クレヨン・パス・コンテ・水彩絵の具の造形表現にかかわって、安全性や生態系に配慮した描画材づくりと活用事例の学びを通して、幼児期における造形表現の教育的意義を具現化するための方法を習得する。</p> <p>【実施概要】                  画材を開発・製造するペンてる株式会社よりゲストスピーカーを招き、EU玩具安全指令 EN71-7 に基づく描画材づくりや工場排水浄化の取組について講義を聞き、描画材による創造体験を行った。描画材の製造過程の紹介と併せて作品を発表した。</p> <p>【学習効果】                  幼児教育・保育には欠かせない身近な描画材を通して、環境への働きかけ方を考えるきっかけとなった。また、幼児における造形表現の大切さについて製作を通して考え深めることができた。</p>	   
<b>授業での取組事例②</b>	<p><b>季節の行事「ハロウィーン」の大型ランタン作り</b>                  (担当教員) 杉浦広幸 教授 (科目名) 幼児と環境・特別研究Ⅰ (子どもと園芸)                  (連携先) 認定こども園 (実施時期) 令和4年10月</p> <p>【教育目標】                  プラスチック等でない植物をハロウィーンの飾りとして栽培し、保育に活用する方法について体験しながら学習し、子どもが季節を感じながら身近な動植物に親しみを持ち、生命の尊さに気づくような保育ができるようになる。</p> <p>【実施概要】                  学内の畑で栽培したかぼちゃを用いてジャック・オ・ランタンを作成し、キャンパス内に配置・飾り付けを行った。制作の過程で附属の認定こども園の子どもたちと活動する機会も設けた。認定こども園とのハロウィーンイベントでも行事に親しみ、農作物加工の楽しさや季節感を享受した。</p> <p>【学習効果】                  プラスチックでない本物の植物教材を活用し、保育での遊びや生活に自然を取り入れ、子どもの自然への関心を育てるための知識と体験を習得できた。ハロウィーン前・当日には一斉に点火し、地域の方々にも楽しんでもらえた。</p>	  
<b>研究での取組事例</b>	<p><b>5歳児健康相談事業による幼稚園で気になる子どもの評価の研究</b>                  (担当教員) 小野舟瑛 講師 (実施時期) 平成30年～現在</p> <p>【研究目標】                  5歳児健康相談事業をおこなうなかで、発達の問題や園での適応、小学校進学後の学校適応に困難を抱える可能性がある児を見出し、適切な支援につなげる。</p> <p>【研究概要】                  県内A町の町立幼稚園年中クラスを対象に5歳児健康相談事業をおこなっている。幼稚園のクラスごとに所定の活動や運動に取り組んでもらい、専門職(保健師、公認心理師など)がその様子を観察する。さらに保護者や幼稚園教諭に子どもの行動に関するアンケートを実施し、それらの結果を踏まえて支援を要する児を抽出し、支援につなげる。</p> <p>【研究成果】                  小野舟瑛・野村昂樹(2022) 年中から年長にかけての子どもの問題行動の推移：5歳児健診でフォローアップとなった児を対象とした検討。日本心理学会第86回大会大会発表論文集, 3EV-024., 他。</p>	
<b>学生の取組事例</b>	<p><b>学外実習用名札・自己紹介用教材、保育での教材作成</b>                  (活動団体) 1年次学生 (担当教員) 佐藤昌彦 教授 他 (活動時期) 令和4年8～9月</p> <p>【活動目標】                  子どもが喜ぶ姿を思い浮かべてよりよい教材をつくる体験を通して、ものをつくる責任についての理解を深める。</p> <p>【活動概要】                  授業での学びを活かし、子どもの興味・関心や発達段階等に配慮しながら多様な材料を用いて教材の開発を行った。</p> <p>【成果】                  保育において活用できる教材を、学生それぞれに工夫を凝らして作成した。実習やボランティア活動など、保育現場での活動時に利活用している。</p>	  

